

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第591号 2019年1月20日

新年のご挨拶

「神のわざの必然」 主任司祭 ミカエル鈴木真

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に赴任して以来、多くの皆様にお世話になり、ありがとうございました。新しい年も、皆様と共に歩んでゆける1年にしたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。22年ぶりに山手に、しかも今度は主任として戻り、改めて、山手小教区の持つ特殊性を実感しています。人が多いし、様々な国籍の方が沢山いらして、しかも司教座聖堂。加えて改めて、山手の持つ歴史の重みを感じています。1862年（実はわたしの生まれる100年前です）に、この教会ができてから、日本の再宣教のすべてはここから始まりました。そして今わたしたちがここにいるのも、すべて神のわざの「必然」です。そんな神の御計画の遠大さを感じながら、今年も多くの人をここ山手にお迎えしたいと思います。



助任司祭 キジト・マワイラ

親愛なる信者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆さんは感謝を込めてゆく年を見送り、熱い期待の内に新年



を迎えられたと思います。

ですから、今年が昨年より、あらゆる面で良い年となるように努めようではありませんか。このことこそ、神の栄光と皆さんの幸せを実現するための神様からの恵みと贈り物なのです。

私たちが新年にあたり決意を新たにすることとは、私たちがいつも変わらず創造主につき従って行くということであり、私たちを取り巻くどんなことでも一時的に災いに見えても結局、私たちは神の恵みに与ることになるのです。ですから何よりも神の恵みを信じましょう。何にも増して、神様を第一にあがめ、尊ぶことによって他のすべての事は首尾よく行くということを心に留めましょう。

私たちは幸せな新年を迎えるに当たって、素晴らしい2019年の神様の贈り物に与る信徒として、祈りの翼を飛び続けられるよう、神様にお願いしましょう。イエス様は私たちの生活の中心におられるので、この飛行のパイロットとして、この新たな年が私たちの躍進の年となるように私たちを導いてください。

※原稿の英文を編集部で和訳しました。

協力司祭 モーセ金 允福

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

ご存知の通り、複雑な漢字は二つの漢字を合わせて作られま



した。それで、私たちが「新年」と言う時、「新」という字は斧という意味を持っている「斤」を使って「木」を切り捨てた所がきれいで新しいという意味の字です。私たちは、新しいことは以前のことと関係ないと思います。しかし、この世の全ての新しいことは以前からあったことを通して作られます。だから、「新年」は昨年を通して作られたことです。それゆえ、昨年の良いことと悪いことから必要なことを学べたら、昨年より素晴らしい「新年」を作ることができると思います。ですから、昨年の自分を教師として学んだらいいと思います。今年、昨年よりもっと幸せな一年になるように祈ります。